

パブリックスペースの活用

～横浜で広がるパークキャラバンから学ぶ～

日時 平成 28 年 12 月 17 日 13:30～17:00

場所 名古屋都市センター 14 階特別会議室

■ 講座概要

まちづくり活動に関わりのある方を対象に、住民参加のまちづくりについて、様々なまちづくりの実践者からの講演やワークショップを進めるうえでのファシリテーション技法などを実践的に学ぶ講座を開催しました。

第 3 回は、神奈川県横浜市内で住民や企業、行政を巻き込みながら公共的空間の活用に取り組んでいるNPO法人ハマのトウダイ 共同代表の岡部 祥司さんを迎え、22 名が受講しました。

■ 講師紹介



岡部 祥司 さん

NPO法人ハマのトウダイ 共同代表。(株)アップテラス 代表取締役。

(株)竹中工務店退社後、起業し、(株)アップテラスを設立。

その後、(公社)横浜青年会議所での活動を活かし、2014 年にNPO法人ハマのトウダイを設立し、公共空間の活用ができる人づくりや活用提案などを行っている。

■ コーディネーター

葛山 稔晃 さん (株式会社対話計画 共同代表)

■ おはなし会

講師であるNPO法人ハマのトウダイ 共同代表の岡部さんより、NPOにて取組まれている活動に関する講演がありました。

岡部さんがまちづくりに関わるキッカケとなったのは、28 歳の時に入会した(公社)横浜青年会議所です。青年会議所ではまちづくりに関する事業が行われており、そのときに行政や関係団体と話す機会が多くなり、40 歳の青年会議所卒業のときに、既成概念に縛られていることを変えていこうという思いが原点となり、自身の人脈や経験を活かしてNPOを設立されました。

ハマのトウダイの活動理念「ジブンゴト化する人をつくろう」、活動のモットー「日常の「遊ぶ」「学ぶ」「働く」に変化球を」、団体の合言葉「妄想したら即実行」。それらの言葉には、まちの問題を自分の問題として主体的に考え、物事をみる視点を変えて変化を加えて面白くすることなどが込められています。



ハマのトウダイでは4つの事業を行っています。

1 つ目は「放課後キッズスクール事業」として、小学校での子どもの身守りを横浜市から助成を受けて運営されています。岡部さんが仕事で付き合いのある方からオブジェを譲り受け、教室に置いて子どもの遊び場をつくったり、地域の人達が考案した企画をもとに進めています。

2 つ目は「地域の青年たちのキャリア教育や中小企業とのつながりをつくる事業」として、大学で講義を持ち、問題解決型授業により、地元の中小企業で起こっている実際の問題・課題を解決するにはどうすればよいかを考えています。

3 つ目は「地域商店街を活性化する事業」として、商店街のお祭りのため封鎖された道路上に人工芝を敷き、日本卓球協会の協力を得て卓球台を用意し、スリッパ卓球選手権を開催しました。開催時には、プロの卓球解説者や選手として出場する地元住民を良く知る人物に解説を依頼し、場を盛り上げる仕組みを行政からの補助金無しで実施しました。



和田町スリッパ卓球選手権

©NPO 法人ハマのトウダイ

4 つ目は、公園を活用し人と企業がつながる場所をつくる事業「パークキャラバン」です。この事業の始まりは、子どもと一緒に公園に行った時に禁止事項がとて多いことに気づき、疑問を感じたことがきっかけでした。

地域のお祭りのときには屋台が並ぶことから、自治会や公園愛護会なら利用の幅が広がることを知り、公園愛護会をつくろうと動き出しました。

横浜市内には 2400 箇所の公園があり、その公園の 90%は愛護会が清掃管理を行っているとのこと。ただし、残り 10%は愛護会が無い箇所があり、住民の高齢化により担い手がいけないなどの理由で管理されていない公園があるそうです。

そこで、管理してほしいという声がある公園を探し、勝手に清掃活動を始めました。3 か月程度続けると、地域住民から「なぜ清掃しているのか」と声をかけられたり、自治会長などの地域のキーマンを紹介してもらえるまでになりました。そこで事情を話して、公園管理をNPOが行うことを承諾してもらい、代表者は自治会長にお願いしました。

パークキャラバンでは、人工芝を敷いてみる、地域と共に子どもの「遊びゴト」・大人の「学びゴト」となる企画を企業やNPO等とつくることを通じて、地域のコミュニティを公園でつくることを目標に、防災をメインにした企画を始めました。企画には、アウトドアメーカーに協力してもらい、アウトドア用品の提供

や道具の使い方の説明が出来るスタッフを派遣してもらいました。また、子どもが自分で考えた遊具を組み立てて遊ぶというもので、事前にワークショップを行い、子どもに遊びたい遊具の絵を描いてもらい、その絵をもとに3Dプリンターで遊具の部品を製作し、その部品を子どもが持ってきて、組み立てを公園で行いました。炊き出しとして、地元の飲食店の協力のもとカレー教室を開くなど、普段馴染みのない防災を面白くするしくみをつくりました。



©NPO 法人ハマのトウダイ

この企画を始めとして、都市部の広場や小学校、川辺の敷地等においても拡がり、まちづくり協議会や不動産事業者、鉄道事業者、スポーツメーカーなどの組織とタイアップし、数々の趣向を凝らしたパークキャラバンを実施しました。

パークキャラバンを通じてまちの使い方を変える取り組みを行政と共に進め、公共空間活用のための社会実証実験として、市役所の屋上に人工芝やテントを設置し、会議や食事をとってもらう取り組みを実施しました。また、民間ビルの屋上を活用してバーベキューを実施し、収益が得られなかった屋上に利益を生み出すモデルをつくりだしました。



©NPO 法人ハマのトウダイ

また、「アウトドアオフィス」と題して、公園で会社の会議などを行う社会実験をアウトドアメーカーと行政が一緒になり、実施されました。

最後にこれまでの活動や時勢を踏まえて、行政主導での管理には限界があるため、民間主導で利益を生みながら管理をしていくことが必要になると考えていると話されました。

■ワークショップ～ロールプレイ～

受講生はグループに分かれ、自己紹介を兼ねたアイスブレイクとして、A3用紙を四つ折りにし、4つの面に自己紹介等を記入し、発表しました。

その後、第2回講座で行った「ロールプレイ」のワークショップを行いました。

ロールプレイは、様々な立場の人の役割を演じることで「気づきを促す」「様々な立場の目線を考える」「リアルな場面での体験をする」などを目的として行うものです。

まず、グループ毎にロールプレイ演習用のシナリオが配られ、シナリオに書かれた役割を演技する演技役、ロールプレイの場をまとめる進行役、演技を第三者の目線からみて、その様子や意見の内容を付箋に書いていく観察役の3つに分けられました。

シナリオテーマ①は「廃れた商店街を再生するために地域主体で活性化を考えるためのワークショッ

ブ」と題して、人口40万人規模の中核都市の駅前にある商店街で、まちの高齢化、空き店舗の増加、後継者不足などで存続の危機にある商店街を地元の大学の協力を得て、空き店舗などを活用し、商店街再生へ向けて、考え方に相違があるなか、意見交換会を行うという設定でした。配役は「商店街理事長」、「商店街の店主」、「地元の一般人」、「地元大学生」から選び、配役毎に人物背景が設定されており、それを一読したのち、20 分間の演技をスタートしました。

テーマ①は、対立型の議論となるものとなっており、ファシリテーターは意見の異なる対立者がなぜ反対しているのか、対話を通じて共有する内容となっていました



また、シナリオテーマ②は「金山を舞台にした短編映画をつくる企画会議」と題して、プロジェクトのメンバーによる企画会議を行い、金山の地名の由来となっている金山神社や3つの駅が統合的に整備された金山総合駅、アスナル金山などを題材として、映画を製作するための最初の会議という設定でした。配役はプロジェクトリーダーと中堅、新人などのプロジェクトメンバーから選び、テーマ①と同様に進め、対立しがちなテーマと共感しやすいテーマの2つを体験しました。テーマ②は、ブレインストーミングで多くのアイデアを出しながら、出たアイデアを否定することなく、さらに進化させるようにしながら進める内容となっていました。



グループワークを終えた受講者からは「相反した意見の着地点を見つけるのが難しかった」、「全体の意見を引き出し、収束していくことに苦戦したが、グループメンバーに助けてもらえた」などの感想がありました。

■ ふりかえり～まとめ

今回講座の講評として、講師の岡部さんからは、「対立したときには、その人に「なぜ」と聞き、言葉の背景にあるものを探り、対策を打つことが大切」、「自分で明日から出来ること、限られた人員・資金で出来ることなど、自身が出来る企画へスケールダウンする。」などの言葉がありました。



また、コーディネーターの葛山さんからは「実際の場に出る前に、グループワークなどで疑似体験しておくことでファシリテーションの対応の仕方がしやすくなる。ファシリテーションは場数を踏んで慣れていくことが、上達するための方法のひとつ」と伝えられ、講座は終了しました。

終了後は、講師と名刺交換や受講生同士で交流していました。

